



〔10月8日 撮影〕

## 第二代住職 岡本泰仁 の三回忌

## しんらん同人

No.541  
11・12  
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

## われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

報恩講とは、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶとともに、阿弥陀如来

時の勢いや状況がいかに変わり易いものであるかを思い知らされたことでした。

ご恩に報謝し、當まれる大切な法要のこととで、京都・本願寺では「御正忌報恩講」といい、毎年一月九日から十六日までお勤めされます。

一方全国のお寺では、本山の報恩講に先立ち、九月から一月上旬に「お取り越」と呼んで報恩講をお勤めいたします。

誓願寺では十一月二十六日（日）午前十時より行います。

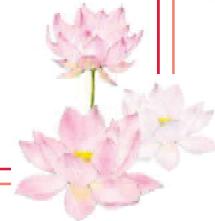
人のうわさも七十五日！ 喉元過ぎれば熱きを忘れる！

先日の衆議院議員総選挙も然り。この世の中の出来事はいかに不確実であり、一

報恩講は浄土真宗では最も大切な法要です。ご家族ご親戚とご一緒にお勤めし、親鸞聖人のみ教えを聞いて、ともに仏縁をいただいたことを喜ぶ機会といたしましょう。

親鸞聖人はこのことを、私たちに分かりやすくお示しくださったのです。聖人のご遺徳を偲ぶとともに、いま私たちがお念佛のみ教えに出会えたことを、感謝させていただく大切なご縁がこの報恩講です。

## 光と闇



この煩惱の闇を払い去ることは絶対に出来ないことです。

み仏のお救いが信ぜられたら、安心して明るい日々が送れるであろうに、なかなか信ずることが出来ない。どうすれば信ぜられるであろうか。どうすれば明るくなれるであろうかと、思い悩んでいる人が多いようです。

何十年と聞いていながら、道理理屈はよく知つていながら、信じられない。

こんな私を無宿善の機というのであろうか。死ぬまで信じられないのであろうか。こうした嘆きを持った人も少なくないようです。

真っ暗な穴蔵の中で明るさを求めて、少しの光も見いだせないよう、求めても求めても真っ暗な闇の中であります。

あたかもそれのように自分の心の中に、光を求めて光はないのです。

明るくなろうとしても明るくはなれない。死ぬまで求めても明るくはなれない。

わが心は煩惱の塊りであり、煩惱のために真っ暗がりなのであります。

「いずれの行も及び難き身なれば、とても地獄は一定住みかぞかし」の祖聖の嘆きは、このことをいわれたのではないでしょうか。

しううか。

いずれの行も及び難い、どうしようもない身なのです。地獄こそ我が間違いのない住み家なのです。

この闇を晴らすものは光よりない。千年の闇室も光が差し込めば、もうそこは一寸の闇もないのです。

闇を晴らして光を入れるではありません。光が差し込めば、すでに闇は晴れてしまうのです。

「日出ずれば刹那に十方の闇ことごとく晴れ、月出ずれば法界の水同時に影を映すがごとし。

月は出でて影を水に宿す。日は出でて闇の晴れぬことあるべからず。

故に、日出でたるか出でざるかを思うべし。闇は晴れたか晴れざるかを疑うべからず。



釈迦如来坐像 [重要文化財]  
10世紀(平安時代) 保福寺(滋賀)蔵

仏は正覚成りたまえるか、未だ成りたまはざるかを分別すべし。

凡夫の往生を得べきか得べからざるかを疑うべからず。

『衆生往生せば佛に成らじ』と誓いたまいし法藏比丘の十劫にすでに成仏したまえり。

仏体よりはすでに成じたまいける往生を、つたなく今日まで知らずして空しく流転しけるなり』と。

仏は、私達を救わんがために、阿弥陀仏となりたもうたのであります。

南無阿弥陀仏のみ名は、私たちが往生すべき証拠なのであって、間違いなくお救いにあづかることよど、安心させていただくばかりであります。

お領解を聞かれたおそのさんは、「まいらせてやろうの仰せのほかには、後も先も存じませぬ。」と、答えている。

「ただ念佛して弥陀にたすけられまいらすべしと、よき人の仰せをこうむりて、信する外に仔細なきなり。」と、親鸞聖人は仰せであります。

わが計らいをやめて、素直に本願のお呼び声を聞かせていただきます。

## 「法味抄」より

千年の間、締め切られた部屋でも、一度光が差し込めば、たちまち闇は消えてしまうように、遠いにしえからの無明の闇も、仏の光にあえればたちまち消えてしまう。（論註）

田畠があればその田のために心配をし、家があればその家のために心配する。だからといって、田畠がなければ得たいと思って心配をし、家がなければ得たいと心配する。あっても無くても心配はなくならない。

第十八願。もし我仏と成ったならば、十方の衆生は真心をもつて、淨土に生まれたいと願い、我が名を称えるであろう。そうでなければ悟りの身とは成らない。ただ五逆罪を犯す者と正法を誇る者は除かれる。（大経）

「法味抄」は、故岡本泰雄が「聖語を読みたいと思つても、漢文や古文で書かれているのでなかなか理解しにくい。わかりやすい仮教書がほしい。」という方々の願いに応じて、真宗聖教中から要文を抜き出し、意訳した冊子です。  
聖語末の（ ）内の文字は聖教の書名を略記したものです。

## 【ご法座等のご案内】

11月

**11・12(日)**

■午前十時

定例法座 【岡本信之師】

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

■午前十時

定例法座 【岡本信悟師】

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

12月

**12・10(日)**

■午前十時

定例法座 【岡本信悟師】

医療相談 【佐藤公彦医師】

**11・26(日)**

■午前十時

なかよしクラブ  
(乳幼児から小学生まで)

**12・31(日)**

■午前〇時

定例法座・祥月命日合同法要  
【高田慈昭師】

【高田慈昭師】

報恩講・祥月命日合同法要

除夜の鐘を撞きませんか

編  
集  
後  
記

・平成二十九年最後の「 shinran 同人」となりました。

・すぎ行く月日の早さばかりが気になりますが、若い世代も育つてることを思うと楽しみでもあります。

・平成三十年の法座日程も固まりつつあります。カレンダーに法座日程を記載して年内にお届けの予定です。

・また、来寺記念品も決定いたしました。お楽しみを!

・十二月三十一日の除夜会にもお越しください。

・最近のリキは食事とトイレ以外はほとんど玄関で寝ている好好爺犬になりました。人間でいうと百歳くらいでしょうか。



[玄関が定位置のリキ]

**11・19(日)**

■午前十時

なかよしクラブ  
(乳幼児から小学生まで)

**12・17(日)**

■午後一時

第三日曜日です。  
お間違えのないよう  
ご注意ください。

定例法座・祥月命日合同法要  
【高田慈昭師】